

無形文化を伝える身体的インタラクションデザイン

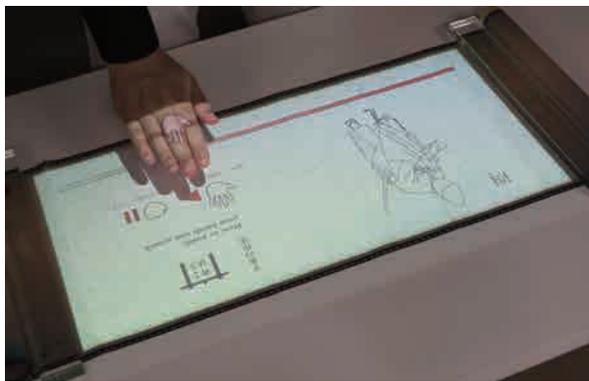
芸術工学研究科

小林桂

日本では文化産業戦略において、日本人の感性や伝統に支えられた文化や儀式、風習のありようなどを日本の魅力として自ら再認識し、これらの魅力を世界に発信することが期待されている。この中でも衣食住や日用工芸品などの日常生活の中で体験できる無形文化は、普段の生活の中で実践することができるため、考え方や価値観にも大きな影響を与えらる。

このような日常的な無形文化を伝える際の問題として、作法などは時系列の行動要素から構成されることに加えて、料理のように食べた後で情報を提示しても対応がつきにくいことが挙げられる。そのため、現実世界での体験行動に合わせて、適切なタイミングで必要な情報を提示できることが重要となる。

本研究では、利用者の体験行動の認識により、体験内容に合わせて適切なタイミングで映像や知識などを提示することができる身体的インタラクション技術を活用したメディアを提案する。本システムの適用例として、日常空間の限られたスペースで体験できるとともに、普段の生活の中で実践可能である、また文化的背景や作法などの知識を伝えることが効果的であると考えられるものとして、神社、風呂敷、和食、書道を選定した。本システムの枠組みは、様々な国の食文化や、日用工芸品、子供の遊び、畳や庭園などの空間構成を持つ無形文化の伝達に発展的に活用できると考えられる。



神社における参拝文化を伝える拡張現実メディア



風呂敷文化を伝える拡張現実メディア



和食文化を伝える卓上投影インタラクティブシステム



漢字と自然の関わりを伝える書道体験システムのプロトタイプ